

博物館・美術館等保存担当学芸員研修(ホ08)

- 目的 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。
2) 研修の体系を完成させるとともに、研修受講者を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

- 成果 1. 第37回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を、文化財活用センターと共催で実施した(2020(令和2)年10月5~15日、受講者17名)。
2. 1週目の基礎的な内容の講習を文化財活用センターが担当し、2週目を当所の各研究室がおよそ半日単位で受け持ち、以下の講義を実施した: 文化財の科学調査(分析科学研究室)、生物被害対策(生物科学研究室)、屋外文化財の保存(修復計画研究室)、温熱環境制御(保存環境研究室)、近代文化遺産の保存(近代文化遺産研究室)、修復材料の種類と特性/紙資料・日本画の保存修復(修復材料研究室)、博物館の防災(文化財防災センター)。
3. 研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行った。参加者から有益と評価された。
4. 第36回博物館・美術館等保存担当学芸員研修受講者の所属長あてに、研修成果の活用実績やカリキュラム、応募手続き等に関する要望を問うアンケート調査を行った。



研修の様子

- 研究組織 ○秋山純子、相馬静乃、小安友利恵(以上、保存科学研究センター)、水谷悦子(併任、文化財防災センター)、吉田直人、間渕創(以上、併任、文化財活用センター)

文化財の収集・保管に関する指導助言(シ)

令和2年度は以下の組織等において指導助言を行った(24件)。

1. 国立歴史民俗博物館運営委員・資料収集委員会
2. 文化審議会世界文化遺産部会での世界遺産条約の履行に関する助言
3. 北区文化振興財団による中高生のためのレベルアップワークショップへの協力
4. 大分県立埋蔵文化財センターでの企画展協力及び講演
5. 北区文化振興財団によるアトリエ館での特別解説
6. 首里城火災で被災した文化財の記録作成
- 7~24以下、所蔵作品調査に関する協力・助言

国友鉄砲ミュージアム、甲賀市水口歴史民俗資料館、多久市郷土資料館、茨木市文化財資料館、南蛮文化館、神戸市立博物館、長崎市教育委員会、藤基神社(新潟県村上市)、大田区立勝海舟記念館、逸翁美術館、敦井美術館、新潟市歴史博物館